

日本産アリモドキバチ科の最近の知見

寺山 守 (東大・農)

アリモドキバチ科(Embolemidae)はセイボウ上科に含まれる一群で、化石種を除き現在世界に2属27種が知られている。本科は触角が10節からなり、触角挿入部が著しく前方に突出することから他科との区別は容易である。特に種によっては雌において頭部が洋梨状で、かつはねが著しく退化縮小する特異的な形態を持つことから、日本でもその存在が比較的良く知られて来た。ただし、同時に非常に稀な種とも思われて来ており、事実これまでの国内での採集例は非常に少ない。

近年 Olmi (1995, 1997)によって世界のアリモドキバチ科が総括された。それによると、日本のアリモドキバチはこれまでに知られていた2種の学名が変更され、さらに1種が新たに加えられた。本報では日本産3種について、適用される学名を提示するとともに、新分布記録地を含めた分布記録や生態情報についてもまとめておきたい。

本小文を起こすにあたり、発表の機会を与えて下さった南部敏明氏に御礼申し上げます。

セイボウ上科 Chrysidoidea

アリモドキバチ科 Embolemidae

1) *Embolemus ruddii* Westwood, 1833 アリモドキバチ

Embolemus walkeri Richards, 1951 (Synonymy by Olmi, 1995.)

国内では Richards (1951), 安松(1954)以来, *E. walkeri* の学名で親しまれて来たが, ユーラシア大陸に広く分布する *E. ruddii* の同物異名と見なされた。和名のアリモドキバチは安松(1954)による提唱である。

雌は極端な短翅であるが, 雄は通常の有翅である。千葉県では2月に, 高知県では3月に雌が採集されていることから, 雌は成虫越冬を行なう可能性がある。

分布: ヨーロッパから極東ロシア, 中国, 日本, 台湾にかけて広く分布する。

国内分布: 北海道(札幌), 本州(福島, 千葉, 愛知, 和歌山, 三重), 四国(愛媛, 高知), 九州(福岡, 佐賀, 対馬)。

2) *Embolemus pecki* Olmi, 1997 | リュウキュウアリモドキバチ (新称)

九州以南に分布する。雄のサイズは変異があり、体長 1 mm から 4 mm の幅を持つ。雌は未知。

分布：日本の九州を北限とし、台湾、インドネシアから記録されている。

国内分布：九州（福岡），四国（石鎚山），琉球列島（石垣島，西表島）。

3) *Ampulicomorpha hachijoensis* (Hirashima & Yamagishi, 1975)

ハネアリモドキバチ (新称)

Embolemus hachijoensis Hirashima & Yamagishi, 1975 (Genus transferred by Olmi, 1995, to the *Ampulicomorpha*.)

当初、伊豆諸島の八丈島産の個体をもとに記載された種であるが、国内では本州からも得られており、おそらく北海道や九州にも生息する。本属は *Embolemus* 属と異なり雌雄ともに有翅である。

分布：日本、台湾、ロシア (Rostov Prov.).

国内分布：本州（茨城），伊豆諸島（八丈島）。

日本産アリモドキバチ科の種の検索

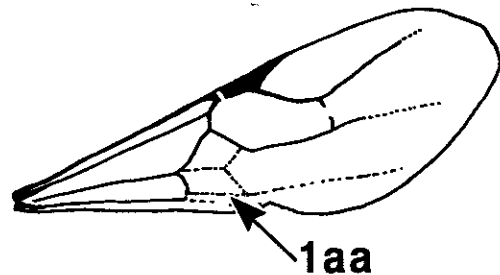
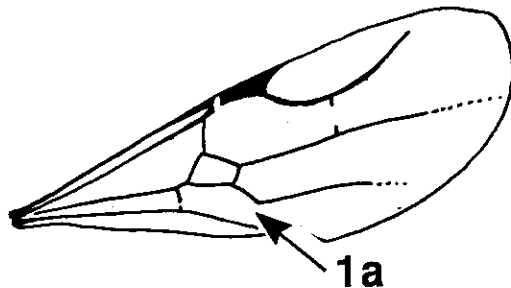
1a. 雌は短翅，雄は通常の有翅。前翅の 2Cu (2nd cubital cell = 1st subdiscal cell) 室は閉じられない

..... 2

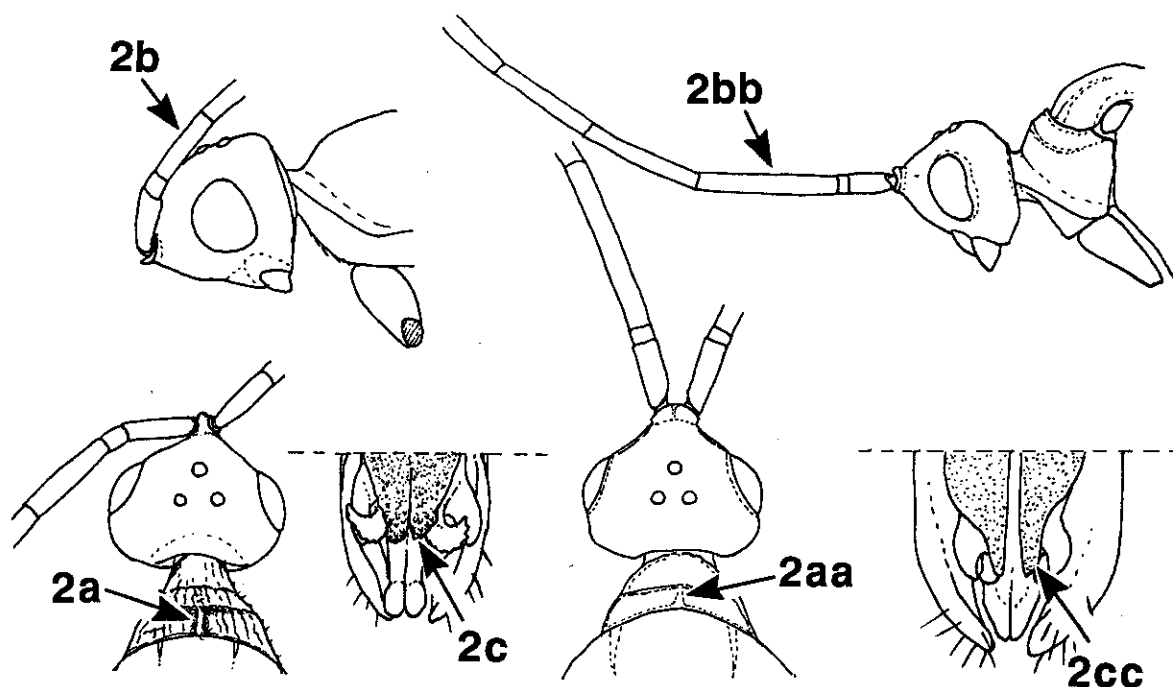
1aa. 雌雄ともに有翅。前翅の 2 Cu 室は閉じられる

..... *Ampulicomorpha hachijoensis* (Hirashima & Yamagishi)

ハネアリモドキバチ



- 2a. 雄の前胸背面に背板前端に達する明瞭な縦走溝がある
- b. 雄の触角柄節は触角第3節の1/2の長さ
- c. 雄の交尾鉤(paramere)の基部膜状突起の先端に多くの乳頭状の小突起がある
- *Embolemus pecki* Olmi リュウキュウアリモドキバチ
- 2aa. 雄の前胸背面の縦走溝は不明瞭で、背板前端に達しない
- bb. 雄の触角柄節は第3節の1/3の長さ
- cc. 雄の交尾鉤(paramere)の基部膜状突起の先端に小突起はない
- *Embolemus ruddii* Westwood アリモドキバチ



生態ノート

ユーラシア産のアリモドキバチ類はアリの巣中や哺乳類が地面に掘った坑道から採集される例があり、アリとの関係が示唆されて来た。本邦のアリモドキバチも最初に採集された個体はクシケアリ属の一種(*Myrmica* sp.)の巣中から見い出されている。しかしながら、近年幾つかの種で *Achilidae* の幼虫のような同翅目昆虫を寄主としていることが報告されており、アリとの直接的な関係はないものと思われる。

前に述べたが、本科のハチは非常に稀であると思われて来たが、近年マレーズトラップが多用されるようになるにつれて、しばしば各地で採集されるようになってきた。ただし特別な採集方法のない短翅雌は採集されにくく、ツルグレン装置等によって時折り得られる程度の現状にある。

参考文献

- Hirashima, Y. & Yamagishi, K. 1975. Embolemidae of Japan, with description of a new species of *Embolemus* from Hachijo island (Hymenoptera, Bethyloidea). *Esakia*, (9): 25-30.
- Oلمي, M. 1995. A revision of the world Embolemidae (Hymenoptera Chrysidoidea). *Frustula Entomol.* (n. s.), 18: 85-146.
- Oلمي, M. 1997. A contribution to the knowledge of the Embolemidae and Dryinidae (Hymenoptera Chrysidoidea). *Boll. Zool. agr. Bachic., Ser. II*, 29: 125-150.
- Richards, O. W. 1952. New species of Bethyloidea (Hymenoptera). *Ann. Mag. Nat. Hist., Ser. 12*, 4: 813-815.
- 寺山 守, 1998. セイボウ上科. 日高敏隆 (監修), 日本動物大百科 10 昆虫 III, p. 31. 平凡社.
- 安松京三, 1954. アリモドキバチについて. *げんせい*, 3: 1-2.
- Yasumatsu, K. 1960. Notes on two species of Japanese Bethyloidea (Hymenoptera). *Esakia*, (1): 21-25 + plate 6.

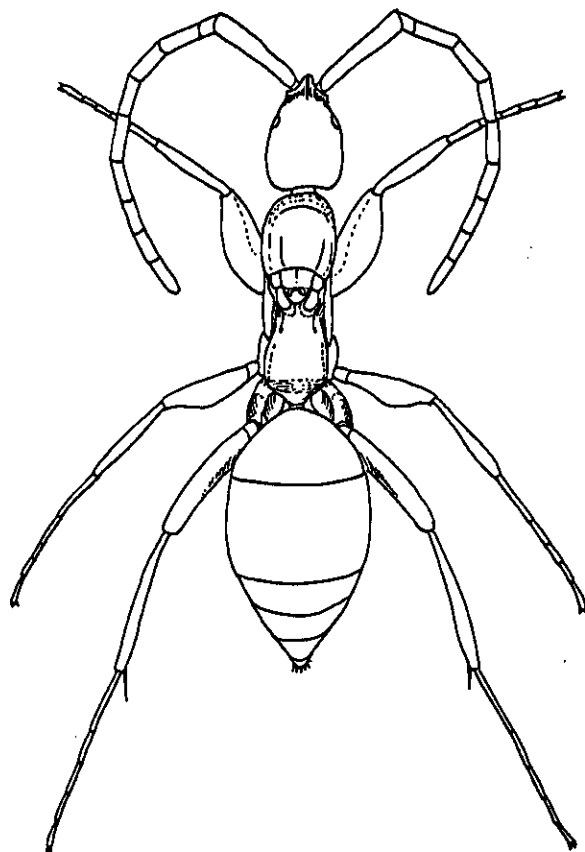


図. *Embolemus ruddii* Westwood アリモドキバチ, 雌.